9-1		主題	活用しようヒヤリハット 見直そうサイドレール	
リスクマネジメント		副題	職員の意識向上を目指して！！	
意識向上				
研究期間	7ヵ月	事業所	特別養護老人ホーム 大洋園	
発表者：鈴木 美穂			アドバイザー：生活相談員 大森 康一	
共同研究者：齊藤 穂				
電話	0428-31-3666	メール	tokuyo@taiyoen.or.jp	
FAX	0428-31-3642	URL	http://www.taiyoen.or.jp	

今回発表の事業所やサービスの紹介	東京都の西端、青梅市という緑と太陽に恵まれた地域で、昭和59年5月に100床の特養として根をおろし26年。現在では160床のベッドに加え同市内に多くの在宅サービスをも多角的に提供し、地域福祉の貢献に日々全力で取り組んでおります。
------------------	--

《研究前の状況と課題》	
(サイドレール)	
<ul style="list-style-type: none"> 4本サイドレールは拘束だと認識していたが、その他のサイドレールについての拘束に対する知識が曖昧だった。 利用者1人1人のADLに合った対応が出来ていなかった。 職員自体サイドレールの位置を変更する事に不安があった。 	
(ヒヤリハット)	
<ul style="list-style-type: none"> 内部研修で危険予知訓練のプリントを行い、リスクを多く出せる人と出せない人がいた。 班の人員によってリスクを出せない人が偏って集まっていた場合、事故が起こりやすくなるのではないかと不安。 記入しづらい場所に設置されている。 本来のヒヤリハットの役割を理解していない。 	

《研究の目標と期待する成果》	
<目標>	
<ul style="list-style-type: none"> 中央サイドレール（ベッド中央に使用するもの）も拘束だと認識する。 拘束（サイドレール）についての知識を得る機会をつくる。 サイドレールの位置を変更すると同時に職員の意識を高める。 本来のヒヤリハットの役割を理解する。 職員の危険予知の意識の偏りがある為、その差をなくす。 	
<期待する成果>	
<ul style="list-style-type: none"> 拘束に対する捉え方が変化してほしい。 利用者1人1人のADLに合った対応を行う。 職員の危険察知する能力が高まって欲しい。 職員1人1人がサイドレールに頼りきっていた事に気付いて欲しい。 本来のヒヤリハットの役割を理解し、危険予知に対する意識が高まって欲しい。 	

《具体的な取り組みの内容》

(サイドレール)

- 1月→職員に対しリスクマネジメントについてどう思っているのかアンケート実施、分析。
- 2月→各階1班ずつ月ごとに拘束（サイドレール）について見直し、利用者1人1人ADLに合った対応を行う。
- 3月～4月→取り組んだ班の職員に実際行ってみてどう感じたか、取り組み前後で考えに変化はあったか等意見を聞く機会を設ける。
- 5月→全体的に中央サイドレール（ベッド中央に使用するもの）も拘束であると認識する。

(ヒヤリハット)

- 内部研修を行い職員の危険予知の意識の偏りがあるのが分かり、実際の意識を確認する為、アンケートを実施する。
- アンケートの集計・分析
- 職員が記入しやすいようにヒヤリハットノート設置（4月～）
- 内部研修や朝礼で職員全体にヒヤリハットについて伝達する。

《取り組みの結果と評価》

(サイドレール)

- 中央サイドレール（ベッド中央に使用するもの）も拘束であると認識できた。
- 利用者1人1人ADLに合った対応が出来た。
- 職員の意識が高まった。
- 試みを行う事で注意力が増した。
- 拘束に対する捉え方・考え方が変わった。

(ヒヤリハット)

- ヒヤリハットノートを設置する事で以前より記入しやすくなった。
- ヒヤリハットの本来の役割を理解し、意識が高まった。
- ノートに記入する事で過去のヒヤリハットを見直す事が出来る。

《まとめ》

- 今後、拘束に対する新しい知識を得る機会を増やし、意識を高めていく。
- 職員同士で伝達し合い、常に事故防止の意識を高め合っていく。
- ヒヤリハットの意識が高まり、それを踏まえてリスクマネジメント委員会と協力し事故を未然に防げるよう取り組んでいく。
- ヒヤリハットを記入する環境作りのもう一工夫が必要である。
- 危険予知訓練の継続と効果の検証を行う。

《提案と発信》

（重要）現在の福祉業界は、現場からの発信力が試されています。貴事業所の取り組みを、広く他の事業所にも紹介し、福祉業界全体のレベルアップに繋げることができたら、大変意味のある発表になります。研究を通して、福祉業界への提案、他の事業所への呼びかけ等、貴事業所からの情報発信をご記入下さい。

【メモ欄】追加資料 有 無

注：参加者が自由に記入できるスペースです。空欄のまま提出下さい。